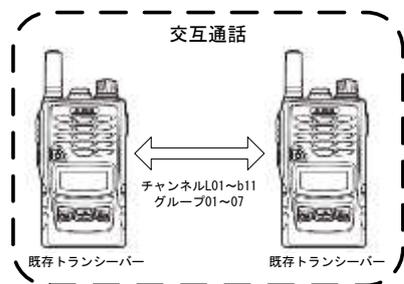
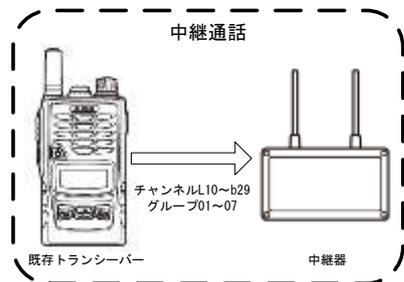
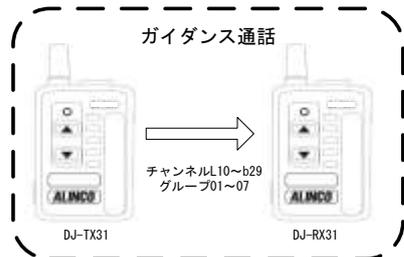
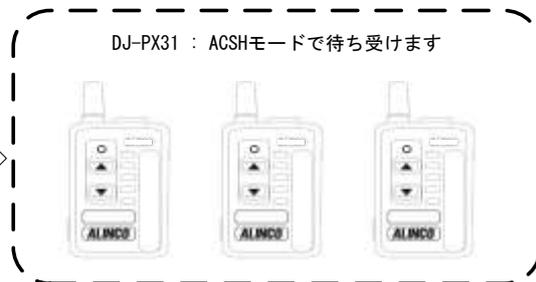
DJ-PX31/TX31/RX31 ACSH設定について

ACSH「アクシュ」(Auto Connect Shake Hands)モードは既に使用しているトランシーバーのチャンネルとグループ番号をスキャンして検出し､任意の台数の無線機を一度に自動設定するもので、面倒な設定作業が省略できる便利な機能です。DJ-PX31は、交互通話と中継通話の特定小電力トランシーバーであれば弊社製、他社製を問わず自動設定できます。

DJ-TX31とDJ-RX31は、手動でチャンネルとグループ番号を設定したDJ-TX31を送信元にしてDJ-RX31をACSH設定します。DJ-TX31は送信機なのでACSHの必要はありません。DJ-RX31のACSH モードは、DJ-TX31専用です。DJ-TX31以外のトランシーバーを使ってACSH設定することはできません。

概要

ACSHを始める前に

- 外来電波による誤判定を防ぐため、ACSHをする時は全てのトランシーバーを至近距離に集めてください。
- 周りが騒がしいと設定もとのトランシーバーのマイクがその音を拾って信号が乱れ、正しくACSHできないことがあります。ACSHするときは静かな場所を選んでください。
- 自動設定中は電源を切らないでください。正しく設定できません。ACSH中に電源が切れても故障の原因にはなりませんが、まれに中途半端な設定が残ることがあります。

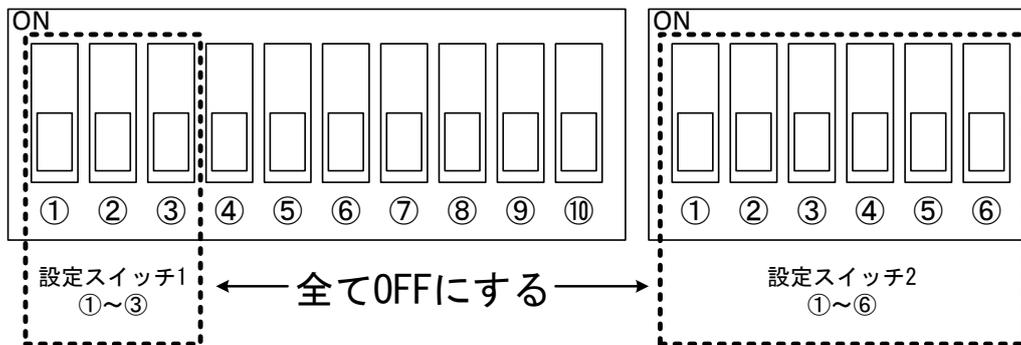
ACSH を最初からやり直すか、手動で設定し直してください。

・ グループ機能の番号は「01」～「07」の間で選んでください。子機がサポートしない番号にすると、グループ機能は「使わない（OFF)」として自動設定されます。

・ 中継子機にするときは、中継器の周波数帯をB（421MHz 帯送信）に設定してください。中継器の周波数帯を A（440MHz 帯送信）にしていると、ACSH 設定はできません。
また ACSH は中継器の近くでおこなってください。この時 ACSH は設定もとトランシーバーでは無く、中継器の信号を検知するためです。

設定方法

① ACSH モードで自動設定する任意の台数のトランシーバー（以下、子機）と、既にご使用中の設定もと(設定済み)トランシーバー１台を準備します。設定もとのトランシーバーはあらかじめ電源を入れておきます。複数台ある時は全ての個体で同じ操作をします。

② 子機のチャンネルとグループ番号設定スイッチ（設定スイッチ 1 の①～③ と設定スイッチ 2 の①～⑥）を全て OFF にします。スイッチが一つでも ON になっているとその（手動）設定が優先されて ACSH できません。

③ 電源を切ります。

④ △/▽(アップ/ダウン)キー両方を同時に押しながら、電源スイッチを ON にして電源を入れます。

⑤ △/▽(アップ/ダウン)キーを一度離して、すかさずもう一度△/▽(アップ/ダウン)キー両方を 5 秒以上押し続けます。押し続けると点灯（または点滅）の赤ランプが緑ランプ点滅に変わります。複数台ある時は、全部の個体を緑点滅にします。

⑥ 設定元になるトランシーバーを送信状態にしてしばらく待ちます。 電波を検知すると緑ランプの点滅速度が速くなり、設定が終わると自動的に再起動して赤ランプが点灯に変わります。ACSH 設定は数秒から最長で 2 分程度かかることがあります。設定が終わったら、設定もとのトランシーバーと正しく送受信できることを確認してください。

参考：複数台あるとき、設定もとのトランシーバーを PTT ロックや PTT ホールドして送信状態を保持していれば、⑤の操作は事前にまとめてやらず、一台ずつ順番に ACSH モードにしても（時間差があっても）自動設定できます。ACSH モードになった個体から検知を始め、設定が終わったら赤ランプが点灯します。

以上